



目次

- ・ ウェスティングハウス社とアメリカ合衆国の思い出 (5)中谷 博 (pp.1-7)
- ・ 淡路島紀行 (その3) 北淡震災記念公園.....藤川卓爾 (pp.8-11)
- ・ H30年度 中国・四国支部 九州支部 春季行事合同開催のご報告～住友重機械新居浜事業所、別子銅山見学～ (pp.12-14)
- ・ S53同窓会.....上原一浩 (p.15)
- ・ H30晦日会 (河本教授研究室同窓会) 開催報告.....川合 等 (p.16)



梨木神社の萩

©京都を歩くアルバム <http://kyoto-albumwalking2.cocolog-nifty.com/>

ウェスティングハウス社とアメリカ合衆国の思い出 (5)

中谷 博 (S34/1959卒)

1 1. バッファローとナイアガラ、トロント、ロチェスター

ビーバーでの研修を終えて、次のバッファロー工場のあるバッファロー市へと車を走らせた。バッファロー市は、ニューヨーク州の西端に位置し、人口がニューヨーク州第二の都市である。西側がエリー湖に接し、北側にはナイアガラの滝

があり、オンタリオ湖が広がっている。ピッツバーグに滞在していた時に、キャブレッターの不具合など、いろいろ故障が多く悩まされた車ポンティアックを長距離走らせるのは、多少心配だったが、途中までは時速100kmを超える速度で快適に走行することが出来た。しばらくすると、雪が降り出して、雪の中をドライブすることになった。年が明けた1月半ばは、ペンシルバニア州からニューヨーク州にかけて、非常に寒い気候が続いていて、バッファロー市に近づくにつれて雪がだんだんひどくなった。雪によって道路標識が見えにくくなり、ライトを点灯してゆっくり走行するようにした。バッファロー市内に入って、「セネカ」という立体駐車場があったので、休憩のため立ち寄ることにした。しばらく休憩の後、車を発車させようとしたが、動かない。エンジンがかからないと暖房も入らないので、早急に対応しないと大変なことになると思った。幸い近くに電話ボックスがあったので、車トラブル対応のAAAに電話で救急の依頼をしたが、なかなか来てくれない。ある青年が近づいてきたので、事情を説明したところ、この青年が電話でAAAに緊急の出動を要請してくれた。(当時は、携帯電話などない時代だったので、電話ボックスが命の綱であった。) 間もなくAAAの車が来てくれて、ようやく車を動かすことが出来た。雪の降る時は、AAAの出動が多くなるので、緊急の困っている状況を英語で、適切に伝えられるかは非常に大切なことと思う。毎年この地域で、冬季には気温が零下15度C前後になり、多くの人が野外の車の中で凍死していると聞いていたが、危うく命拾いした思いであった。雪が降りしきる中、バッファロー市の中心部まで車を走らせて、ようやくバッファロー空港の近くで見つけたAirways Hotelというホテルに宿泊することにした。翌朝積雪が多く、ホテルの駐車場に止めていた私の車は、雪の中に埋もれた状態であった。幸い天候は回復して、周囲の状況がよく分るようになっていたので、早速ウエスティングハウス社、バッファロー工場のEngineering Managerに電話した。ウエスティングハウス社のバッファロー工場は、バッファロー空港のすぐ隣にあった。大きな工



写真5.1

場で、後に担当のエンジニアから聞いた話では、天井の高いこの工場は、元航空機のロッキード社の工場であったとのことであつた。バッファロー工場、Engineering Managerのミュリンさんに面会し、Department Managerのグリフェンヘーゲンさんに紹介された。この人が、具体的に指示を与えてくれることになり、その後、バッファロー工場滞在中は、いろいろお世話になった。

まず、バッファロー滞在中の下宿を探す必要があつたが、ウエスティングハウス社のお世話で、バッファロー工場から車で5分程度の所で、ダウンタウンに通じるメインストリート（Route5）に近接したオークランドロードにある家に案内してもらつた。ドイツ系のジョン ハネル、マリー ハネル夫妻に面会して、下宿することが決まつた。ドイツのフランクフルト出身ということだつた。オークランドロード近辺の冬景色とハネル夫妻の写真を示す。二階のかなり広い部屋に案内



写真5.2



写真5.3

された。この部屋は、以前ハネル夫妻の長女のエリザベスさんが使っていた部屋ということであつた。冬季は特に寒いバッファローなので、扉や窓は全て二重構造で、暖房は全館一体に行っていた。当時の室温は、華氏66度に設定されていたが、私としてはもう少し暖かい方が良かったが、そのうちにこの温度にも適応できるようになった。一階にはかなり広い居間があつて、老夫妻はこの部屋でテレビを見て過ごしていることが多かつた。私も時々一緒にテレビを見て過ごすようになった。テレビの番組では、「ミッチーミラー合唱団」や「ルーシーショウ」など、日本でも見たことのある番組があつたが、「ジャッキーグリーンソンショウ」など、日本では馴染みのない人気番組もあつた。お笑い番組では、ジョークに対する反応が私とはかなり異なるところがあつた。ジョークを理解するのは、その背景から理解する必要があるようだ。ある時思いがけず、ジョン ハネルさんが日米戦争の発端になつた「真珠湾攻撃」について話をしたことがあつた。ルーズベル

ト大統領が、事前に知っていたということは、彼の仲間の間では常識だということだった。マリー夫人が、そんなことを言うものじゃないと制止したが、皆がそう言っているとして話を続けた。今日、第31代フーバー大統領の著作はじめいろいろな書物で、ルーズベルト大統領が日本の米国への先制攻撃を画策していたことが明らかになっているが、当時一般のアメリカ人の中でも広く知られていたようである。ハネル夫妻には、近くに住んでいる息子がいて、家族揃ってやってくることも多かった。

バッファロー工場では、主に大型のモーターを製造していた。当時、高速のエレベーターでは、直流のモーターを制御して運転する必要があったので、交流モーターを直流に変換するMGセット（Motor Generator Set）を用いていた。（現在は、高速エレベーターでも、全て交流モーターを制御して正確に運転出来るようになっていたので、かなり前からMGセットは使われていない）バッファロー工場では、大型のMG セットを見ることが出来た。巨大な工場を、毎日見て回っていたが、工場の中に検査をする部門で、2人のテクニシャンと出会って、時々立ち寄って雑談をするようになり、検査マニュアルを貰ったこともあった。ウエスティングハウス社での研修では、日本での外国人研修のように決まったスケジュールがある訳ではなく、こちらから具体的に要求しないと、何もやってくれない。その代り、何か要望を出せば、確実に取り計らってくれた。バッファロー工場での研修中に、三菱電機の名古屋製作所から、当時モーター技術部門の課長であった八木さんが、技術調査のためバッファロー工場へ来られた。八木さんも、私と同じ下宿に滞在することになったので、数週間、工場の外では一緒に行動することになった。バッファロー工場へは、毎日私の車で出かけ、一緒に帰宅した。



写真5.4



写真5.5

夕食は、グリフェンヘーゲンさんから教えてもらった「リトルホワイトハウス」というレストランを時々利用していた。名前の通り、ホワイトハウスに外観がよく似ているレストランで、ロブスターなどの料理は結構おいしかった。(このレストランは、現在も営業しているようである) 普段は、もう少し安価なレストランを利用していた。八木さんは、酒豪でもあったので、時々一緒に近くにあるパブへ出かけて、バーボンウイスキーなどを飲みながら、店のマスターとの会話を楽しむこともあった。下宿の部屋で、ウイスキーを酌み交わすこともあったが、八木さんが大部分飲んでいただと思う。レストランの近くには、Laundromatと称するコインランドリーがあったので、洗濯物はこのLaundromatを利用していた。

八木さんと一緒に、車でナイアガラの滝やトロントへ出かけたことがあった。ナイアガラの滝は、バッファロー市から車を運転して30分ほどで、カナダとの国境になっている橋の上にある検問所に到着し、パスポートを見せ、検印を受けて、簡単にカナダ側へ入ることが出来た。アメリカ人なら、身分証明書を提示するだけで、カナダへ入国できるようである。ナイアガラの滝は、カナダ滝とアメリカ滝があるが、メインはやはり、カナダ滝だと思われる。エリー湖からナイアガラ



写真5.6



写真5.7



写真5.8

川を流れ、途中でナイアガラの滝を流れ落ち、オンタリオ湖の側へ流れる壮大な眺めである。私達がナイアガラの滝を訪れたのは、厳寒期であったが、ナイアガラの滝は勢いよく流れ落ちていた。流れ落ちるとすぐ凍ってしまうので、滝の下の方は氷で埋め尽くされていた。暖かいシーズンの場合は、滝の下流で観光の遊覧船が走るようであるが、我々は凍りついたナイアガラの風景を見ることになった。私自身ナイアガラの滝を2度訪れたが、いずれも厳寒期であった。後に、バッファローを離れるとき、下宿のおばさんが、夏の時期に来るように言ってくれたが、その後結局バッファローに行くことが出来なかったのは、今から考えると非常に残念な思いがある。

ナイアガラの滝を見た後で、車をトロントに向けて走らせた。カーラジオを聞いていると、フランス語の放送が入ってきた。この地方はオンタリオ州で、フランス語が公用語のケベック州に近く、カナダの中でもフランス語がかなり使われているらしい。トロントの街に入ったが、街の中は閑散としていて、何処で食事をしたらよいのか分からないくらいであった。日曜日ということもあり、レストランはほとんど閉まっていたので、やっと見つけたレストランに入った。トロント大学の研究所などに立ち寄ったが、行き当たりばったりで、適当に車を走らせてバッファローへ引き返すことにした。トロント大学の遠景を示す。途中で、城を思わせる立派な邸宅をみかけた。

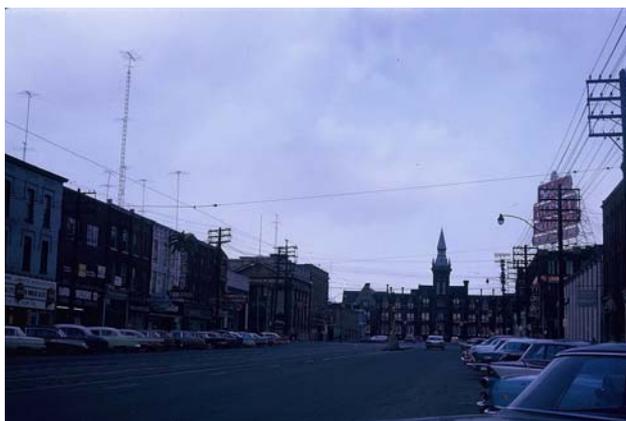


写真5.9



写真5.10

トロントの郊外をドライブしていた時、家の庭でアイススケートをしている女の子を見つけたので、車を止めて写真を撮ろうとしたら、スケートを止めて、二人並んで被写体のポーズをとってくれた。「Newspaper Man?」と問いかけられたので、「Yes」と答えた。新聞に掲載されるのを期待したと思うと、悪いことをしたようだ。



写真5.11



写真5.12

現在のトロント市は、周辺の人口を含めて人口約600万人、カナダ第一の大都会である。高層建築が立ち並んでいるので、当時の面影がほとんどないように見える。八木さんが、ウエスティングハウス社での技術調査を終えて、バッファロー空港から出発することになり、空港で見送った。Greater Buffalo Airportという名称が、現在は、Niagara Buffalo Airportと変更されている。

バッファロー市から東へ一時間くらいドライブした所にロチェスター市がある。人口約20万人のニューヨーク州第三の都市である。学術都市として、イーストマン音楽学校やロチェスター工科大学など多くの大学がキャンパスを置いている。ロチェスターには、イーストマンコダックの本社、工場があったので、訪れたことがあった。私は、アメリカ滞在中の写真を全てコダックのスライド用フィルムや8ミリの動画フィルムを使って撮影した。当時、日本の富士フィルムのカラー写真性能がまだ良くなかったからである。スーパーマーケットでフィルムを買ってきて、撮影後、毎度コダックの現像所に郵送して、送り返してもらっていた。スライド用フィルムを使用したのは、スライドカラー写真の鮮明度が良かったからで、風景写真を主体に撮影することにしていた。人物写真のことは、あまり考えていなかった。8ミリ動画は、現在のビデオカメラと違って、短時間しか撮



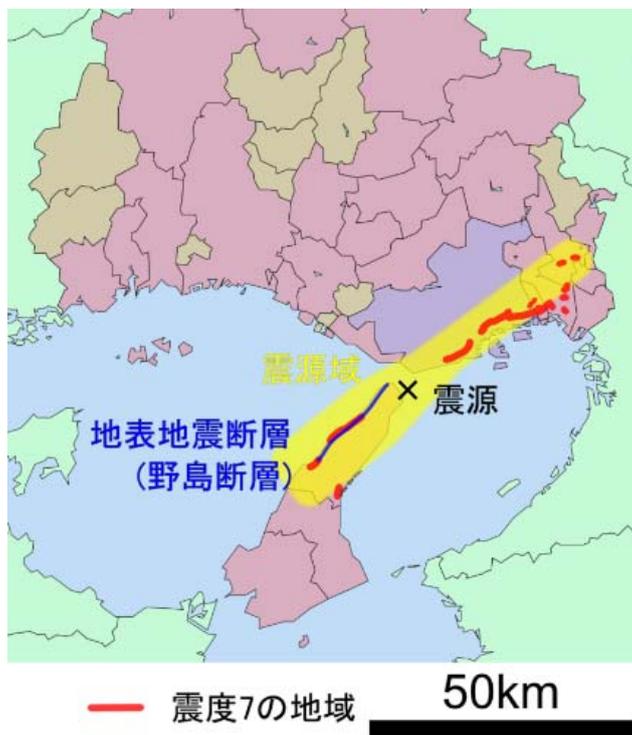
影出来ず、3分撮影する毎、反転して、6分毎にフィルムの交換に時間がかかり大変であった。

写真5.13 (次号に続く)

淡路島紀行（その3）北淡震災記念公園

藤川卓爾（S42/1967/長尾研卒） takuji-f@gsc.gr.jp

平成7(1995)年1月17日に阪神淡路大震災(兵庫県南部地震)が発生しました。震源は明石海峡の地下16kmで、兵庫県を中心に甚大な被害をもたらしました。



■ 震度7の地域 ■ 震央の位置 ■ 震源域 ■ 露出した野島断層

図1 震度7の地域

<出典：Wikipedia 兵庫県南部地震>

淡路島北部では野島断層が地表に露出しました。断層の活動は、Wikipedia<兵庫県南部地震>によれば次の通りです。

「地震前後の測地データを解析および余震の分布などから、兵庫県南部地震を起こした断層は「六甲・淡路島断層帯」で、断層帯南部の淡路島北側の江井崎から伊丹市中心部付近まで南西から北東に伸びる淡路区間と呼ぶ約50km、深さ約5-18kmの断層面であった。この断層面の南西の端から始まった断層のずれは、約10秒間に断層全体に広がって大きな揺れを引き起こしたと推定されている。」

私は頭の中では六甲山は東西に走り、淡路島北部山地は南北に走っていると思っていましたが、図1を見ると両者は同じ方向に走っています。

北淡震災記念公園の野島断層保存館では断層の一部を140mにわたりありのままに保存しています。地震発生の際には断層南東側が南西方向に約1-2m横ずれし(右横ずれ断層)、同時に南東側が約0.5-1.2m隆起して逆断層となっています。横ずれ断層が生じるのは水平方向にせん断応力が働いた場合で、逆断層が生じるのは断層の両側から水平方向に圧縮力が加わった場合です。

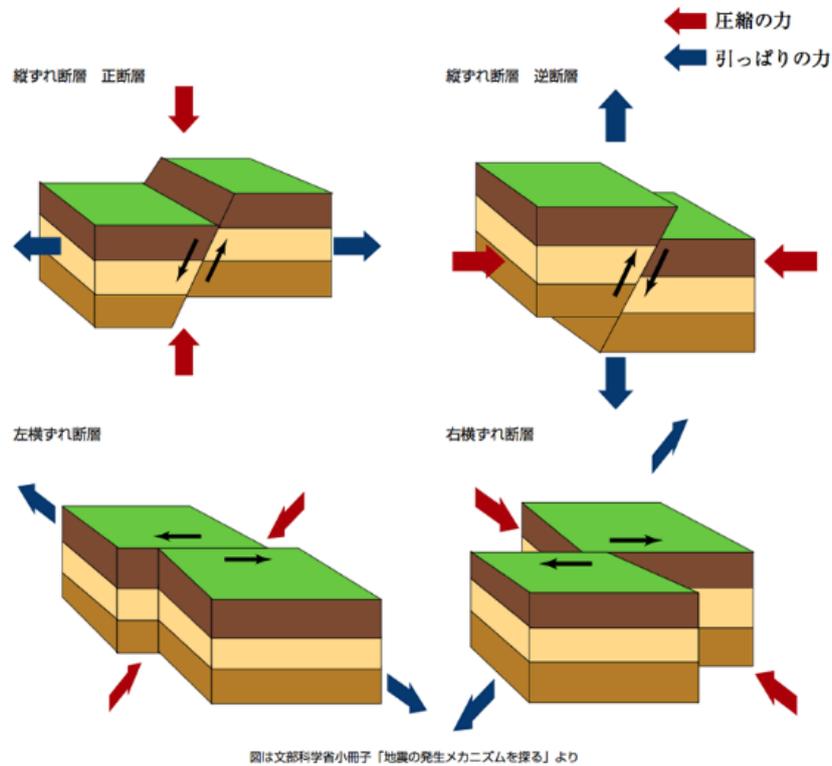


図2 正断層、逆断層、横ずれ断層

<出典 : https://www.jishin.go.jp/resource/terms/tm_fault/>

ホールの入口には断層の活動によって道路の舗装や側溝が崩れてずれたところが保存されています。



写真1 野島断層の活動によってずれた道路と側溝

続いて、断層の活動によって生じた大きな段差が見られます。



写真2 写真3 野島断層の活動によって生じた段差

逆断層による段差とともに横ずれ断層による水平方向のずれも見られます。



写真4 写真5 横ずれ断層による水平方向のずれ

ホールの端には断層の切断面が保存されています。断層の右側の東南部が左側の西北部の上に乗っている様子が良くわかります。



写真6 野島断層の断面

<出典:<http://www.hyogo-tourism.jp/tabinet/furusato100/tishitu/dansou/>>

野島断層保存館を出たところには「神戸の壁」が保存されています。「神戸の壁」は昭和2(1927)年に神戸市長田区若松町に公設市場の防火壁として建てられ、昭和

20(1945)年の神戸大空襲や阪神・淡路大震災にも耐えて残ったものです。平成11(1999)年に兵庫県津名町(当時、現淡路市)に移設、平成21(2009)年に北淡震災記念公園に再移設されました。



写真7 神戸の壁



写真8 メモリアルハウス

さらにその先に「メモリアルハウス」が保存されています。断層の真横でもほとんど壊れなかった家を「地震に強い家」として公開しています。家の塀や花壇の煉瓦がずれた様子、震災当時の台所も再現しています。

この他、震災体験館の体験コーナーではシミュレーターによって兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)と東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)の揺れの違いを体験することができます。

憩いの広場には四国の彫刻家の流政之さんが作ったモニュメント「べっちゃんないロック」と震災犠牲者の慰霊碑があります。

「べっちゃんない」とは、北淡路の方言で「大丈夫」という意味で、「震災ぐらいでは負けない。」という気持ちを表しています。三角錐にしたのは、天に向かって

平和を願うという意味があり、三角錐が3つあるのは寄り添って助け合うという意味と力強さを表現しています。

ちなみに流政之さんは本年7月に95歳で亡くなりました。長崎市出身で零戦のパイロットとして敗戦を迎えたのち、独学で彫刻を学びました。1975年にニューヨークの世界貿易センタービル前に「雲の砦」を作り国際的評価を得ました。



写真9 べっちゃんないロック

(次号に続く)

H30年度 中国・四国支部 九州支部 春季行事合同開催のご報告 ～住友重機械新居浜事業所、別子銅山見学～

中国・四国支部と九州支部では合同で、去る5月19、20日の二日間に渡り、住友グループの発祥の地である新居浜地区を訪ね、住友重機械新居浜事業所を見学すると共に、別子銅山跡をはじめ住友財閥の旧跡を見学する春季行事を実施しました。ご家族の方をはじめ総勢33名がご参加くださいました。

1. 広瀬歴史記念館、旧広瀬邸見学

まず、最初に別子銅山発展の立役者である広瀬幸平の足跡を展示した広瀬歴史記念館を訪問しました。広瀬幸平は幕末・明治の動乱期に、別子銅山の経営危機を何度も乗り越え近代化を推進すると共に、住友重機械や住友林業、住友化学といった住友グループの基幹企業の基盤も築き上げてゆきました。隣にある旧広瀬邸も合わせて見学し、困難に直面しながらも奮闘し時代を切り拓いた総支配人 広瀬幸平の在りし日の姿を垣間見ることが出来ました。



広瀬歴史記念館 旧広瀬邸

2. 住友重機械(株)新居浜事業所見学

続いて、住友重機械(株)新居浜事業所を見学させていただきました。京機会関東支部の黒岩一郎様はじめ新居浜事業所の皆様に現地で新居浜地区での住友の業容をご紹介頂きました。大型鍛造機や大型運搬荷役機械、陽子線治療システムなどの医療システム、宇宙開発を支える極低温システム等、独自技術と事業展開についてプレゼンして頂きました。



住友重機械(株) (製品はHPより引用)

3. 中国四国支部総会、懇親会

夕刻、リーガロイヤルホテル新居浜にて中国・四国支部総会と懇親会を行いました。

支部総会では、平成29年度の活動報告と決算、平成30年度予算の審議に加えて、一部の幹事企業をエリア企業連合とする規約細則を承認しました。

懇親会では、日頃、顔を合わせる機会のまずない中国・四国支部と九州支部のメンバーがお互いに懇親を深めることが出来ました。住友重機械の幹部の方々もご参加いただき、有意義な異業種交流も深めることが出来ました。



懇親会

4. 別子銅山見学

翌日、別子銅山跡を見学しました。別子銅山は1690年に発見され、282年間一貫して住友により民間鉱山として経営されました。標高約800mから1300mの急峻な山岳地帯を舞台に70万トン以上の銅を産出し、日本の貿易や近代化に寄与し

ました。途中で大型バスからマイクロバスに乗り換えながら東洋のマチュピチュとよばれる標高750mの東平地区まで登りました。東平地区は大正5年から昭和5年までの間、別子鉱山の採鉱本部が置かれた場所で、社宅・小学校・劇場・接待館が建てられるなど、昭和43年の閉山まで賑わっていました。過酷な自然と戦いながら山岳鉄道や索道とよばれる物資輸送用ロープウェイ、インクラインなど当時の最新技術を駆使してたくましく鉱山を切り開いていった先人の息遣いが聞こえてくるようでした。ふもとのマイントピア別子では江戸時代の鉱山の様子を再現した坑道で、当時の鉱山の厳しい労働環境も体験しました。



別子銅山

今回は支部役員のない愛媛・新居浜での開催でしたが、関東支部の黒岩一郎様はじめ住友重機械(株)新居浜事業所の皆様に、あらゆる面でご尽力いただいたおかげで開催することが出来ました。紙面をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

また、関東支部から中村会長を始め3名様、関西支部から4名様、九州支部が8名、中国・四国支部が18名と、広範囲かつ遠路よりご参加くださいましたことも嬉しいことでした。皆様に感謝申し上げます。

S53同窓会

上原一浩（S53/1978卒）

2017年11月25日（土）に京都百万遍の「くれしま」で、恒例となった学年同窓会を行い、20名の同窓生が集まりました。



出席者は下記のとおりです。（順不同、敬称略）

飯田 豊、岡部好男、北川吉治、北川聡一、佐々木真治、住田 守、高橋憲男、千葉喜一、中野利朗、長野寛之、名定正孝、西田信一郎、野村真三、橋本 徹、福尾幸一、政友弘明、宮内 直、森 敏雄、矢野 誠、上原一浩

奇しくも同日、琵琶湖周航の歌100周年記念のボート部行事として、加藤登紀子のコンサートがあり、ボート部OBの岡部さんは掛け持ち参加されました。

学年同窓会に初参加の方も何人か居られ、近況を伝えあったり、いろいろと話に花が咲き、あっという間に3時間の時間が過ぎ去る 楽しいひと時を過ごしました。

今年2018年は11月24日（土）13時から百万遍の「くれしま」で開催予定です。

H30晦日会（河本教授研究室同窓会）開催報告

川合 等 (S42/1967)

河本研OB有志の同窓会である晦日会が、本年も平成30年8月25日（土）17時よりホテルグランビア大阪19階アブで開催され、10名が集まりました。

晦日会の前身である河本研同窓会の発起人の一人である市原様（1967年卒）が本年5月に亡くなりました。晦日会の関係者の訃報が3年続いています。メンバー皆が高齢になっていることを実感し、健康に留意しようと再確認しました。メンバーの椿本氏（1967年卒）から「仲間と京都の町の周辺を歩くハイキングをしている」という話がありました。並木氏（1969年卒）からは「京機カフェで伏見の町を歩く案内をだそうと計画をしている。」という話もありました。

皆、今後も健康に留意し来年も元気に集まろうと誓い合いました。来年も8月最終土曜日（2019年8月31日）に同場所での開催を予定しています。

本会は前回の案内に返信をいただいた方に案内することで進めています。関心を持たれた方は担当 hts_kawai@yahoo.co.jp 川合等（1967年卒）まで連絡ください。



左より

芝原隆、椿本敏弘、藤田和廣、龍野憲三、中野兼次、
笹田滋、並木宏徳、柴田俊忍、各務嘉郎、川合等（敬称略）